

## 第3節

# 相手の出方を試すタイプへの基本的対応

1

### 相手の出方を試すタイプの特徴とよくある認知のゆがみ

相手の出方を試すタイプには、愛着障害がよく見られます。近づきたいのにどう近づいていいかわからないので、安全な相手なのか反応してくれる相手なのかを試してしまうのです。

試し方もいろいろで、ベタベタとつきまとうタイプや、いきなり攻撃して相手の反応を見るタイプ、その混合などがあります。かかわっていると振り回されるので、周囲は疲れます。

ベタベタタイプがよく持っている認知は「Black or White」「過小評価」です。

気に入った人や物があると、「この人・物は自分だけのもの」として独占しがります。相手が離れていくのは不安なので、「やめて」や「いや」という拒否の反応に対しては過小評価をします。ですからこちらが本気で怒っても、ケラケラ笑ってまたつきまとうということが繰り返されます。

堪忍袋の緒が切れて無視したりすると、今度は大声で泣き出して、相手を悪者にしてしまいます。最終的には相手にあやまらせて自

分が優位に立つということを繰り返すのです。

特に攻撃して反応を見るタイプの人には、相手が自分の望む反応をするかどうかを、叩いたりつばをはきかけたり、悪口を言ったりして試してきます。

反応がない相手は無視しますが、「なんだよ!」「やめてよ!」と反応したり追いかけてきたりする人には、そのことを口実にして、また次の攻撃を仕掛けていきます。

相手が無視し続けると、思いきり暴力を振るって相手がキレるように仕向けることもあるので、周囲はかかわらないようにしようとしてもなかなかうまくいきません。

むしろ、この子を怒らせないように次第にまわりが合わせていくようになるので、本人は好き勝手に振る舞いますが、まわりはイライラが募っていきます。

一方、本人も好き勝手にやっている割には、周囲に受け入れられていないこともわかっているため、いつも欲求不満です。からむ相手であれば、チャンスとばかりにヒートアップして思いっきり発散するというのを繰り返してしまいます。

## 2

### 相手の出方を試すタイプへの基本的対応

どちらのタイプに対しても、安定した対応を続けることが大切です。いきなり飛びついてきて「抱っこ」や「おんぶ」をねだったら、一度は抱きとめますが、「〇〇のときならいいですよ」と枠を決めて下ろします。

ごねてまわりついててもやりすごし、少しでも距離がとれたら「いま、いい感じだね。先生、この感じ好きだな」と認めます。

いつもそばにいないと不安な背景には、「保存の法則」が成り立っていないことが考えられます。「先生がお手紙書いたから、さびしいときはこれ読んで待っていてね」「お返事くれるとうれしいな」と、代理物でも欲求を満たせるように少しずつ練習していきます。

ベタベタタイプの子どもは友達との関係をつくるのが難しいので、まずは先生との関係を安定させていきながら、同級生とも少しずつ遊べるように、小グループでの対応を進めてください。

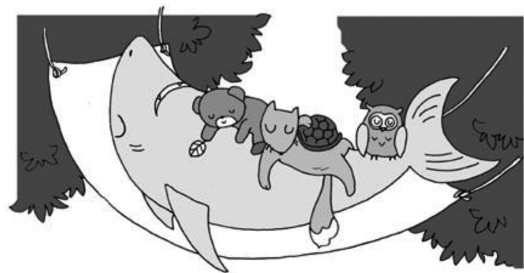
一方、攻撃してくるタイプには、「行動の翻訳」が必要になります。

攻撃は「挨拶」の代わりであることが多いので、叩いてきたら「おはよう！」と言葉で返します。「うぜえ、ばばあ」と返してきたら、「お返事ありがとう」と返しておきます。

叩かれた子には、「びっくりしたね。ごめんね。あの子はあれ、挨拶のつもりなんだよ」と行動を翻訳しておきます。叩かれたことが「怒り」にならないように、叩かれたときの感情は「驚き」とネーミングし、相手の意図を伝えておくと、周りの子どもたちが落ち着

きやすいためです。

その上で、叩いた子には「この次は、お友達に『遊ぼう』って言うと仲間に入りやすいよ」と伝えます。叩いた子が「オレは、あの子たちとは遊ばないもん」と否定的に返して来ても、周囲の子どもたちに「ほらね。お返事をくれたでしょ。照れてるみたいだよ」と叩いた子の言動の翻訳を続けます。お互いの不安が緩和してくると、攻撃タイプは不思議と仲良く遊べる仲間をつくっていきます。



#### 事例6 ベタベタタイプのおおいさん (小学生)

おおいさんは小学3年生です。人から拒絶されるとすぐにカッとなってしまいうタイプです。お腹が痛くなったり泣きだすと止まらなくなったりします。そこで、数名が保健室について行ってはお話を聴くと収まるので、2年生までは周りがおおいさんに合わせてあまり怒らせないようにしていました。それでもちょっとしたことですぐに泣いたりすねたりしてしまうので、まわりもイライラしていました。

3年生のある日のことです。給食の時間に突然、光太郎くんの目の前に本を突きつけ、「ほにゃらび～」と言います。光太郎くんは本に給食がついてしまうといけないので、「や